

令和3年度文化芸術による子供育成総合事業－巡回公演事業－

ワークショップ実施計画書【コロナ対応版】

制作団体名	有限会社 青年劇場
公演団体名	秋田雨雀・土方与志記念青年劇場

内容
◆講師から自己紹介 団体説明 ワークショップについて説明 ◆ウォーミングアップを兼ねて シアターゲーム ◆チームに分かれて「静止画」づくり ◆公演当日参加する生徒さんの為のお稽古 前半は簡単なゲームから入ります。鬼ごっこ、ジャンケンゲームなど、緊張をほぐすところから始めます。なるべく距離を空けて行えるゲームを行います。その後チームに分かれて其々に「お題」を提案、その「お題」を身体表現で表現して「静止画」を作り、発表します。見ているチームはそのシーンがどんな場面なのか答えていきます。 会場は密にならない広い体育館を希望。参加人数も学校と相談しながら密にならないような人数にしていく。

タイムスケジュール（標準）
講師自己紹介 5分 ワークショップ(ストレッチ・シアターゲーム)10分 静止画を作る為のお稽古 15分 発表 10分 休憩 10分 公演の為の上演指導 40分

派遣者数 ※派遣者数の内訳を御入力ください
講師 6人

学校における事前指導
公演に参加していただく生徒さんに達には、事前にその台本をお渡ししておいてください。ワークショップ当日に説明をします、事前に稽古などはしておくことは必要ありません。

令和3年度文化芸術による子供育成総合事業—巡回公演事業—

本公演実施計画書【コロナ対応版】

制作団体名	有限会社 青年劇場
公演団体名	秋田雨雀・土方与志記念青年劇場

演目
「あの夏の絵」 作・演出 福山啓子 美術 石井強司 照明 河崎 浩 選曲 堀沢広幸 音響効果 石井隆 衣裳 宮岡増枝 演出助手 清原達史

派遣者数 ※派遣者数の内訳を御入力ください
出演者 8名 スタッフ9名 合計 17名

タイムスケジュール（標準）	
8時 搬入・仕込み	15時25分 終演
11時(予定)リハーサル	その後バラシ・搬出
13時 生徒入場	17時30分 退校予定
13時30分 開演	

実施校への協力依頼人員
コロナ感染拡大防止上搬入搬出のお手伝いは無し。体育館の換気を行うため、学校の扇風機をお借りします。対応が難し場合は劇団のビックファンで対応いたします。

演目解説

《あらすじ》

被爆者を祖父母に持つ高校一年生の浅野恵は、広島市内の高校一年生。美術部顧問の岡田路子が持ち込んだ「被爆証言を聞いて絵に描く」という取り組みに迷いながらも参加を決意する。東京から引っ越してきた同じ美術部員のナナは友だちよりも絵を描くことが好きで、漫研と兼部しているアツトが気に入らない。そんな三人が岡田の提案でしぶしぶ一緒に被爆体験を聞くことになる。中学三年で、父親を探して入市被爆した白井さんの証言に三人は心を突き動かされるが、ある日、奈々が学校に来なくなり…。

広島市立基町高校創造表現コースの生徒たちが取り組んでいる「被爆者の証言を絵にする」という実践をモデルに、2015年福山啓子書き下ろし、スタジオ結（ゆい）で初演、その後全国公演を開始しています。2018年にはBSプレミアムステージに取り上げられ、全国で放映されました。

コロナ対応して、2時間休憩無しの公演ですが、換気を行うため途中10分間の休憩を入れるよう学校と相談させていただきます。

児童生徒の公演への参加方法、公演に参加させるための工夫

本公演の始まる前に「ダビンチ先生とミケランジェロ君の絵画教室」という簡単なお芝居に参加していただきます。事前のワークショップで作った静止画をそこで発表して、観ている生徒さんに静止画のタイトルを当ててもらいます。ワークショップに参加していない生徒さんも主体的に楽しみながら参加する事ができます。公演当日は参加する生徒さんのマウスシールドを劇団側で用意します。

児童生徒とのふれあい

本来は公演時できるだけ子ども達と劇団員が触れ合う時間を作り、演劇と多面的に出会ってほしいと思っておりますが、コロナの影響もあり限られた内容になります。人数を絞っての仕込み見学。終演後の座談会も場所と人数を検討して行います。